

海口勅欣踊繕裝古今文字讚右軍蘭亭碑及梵字悉曇等書都一十卷敢以奉進略○下

〔北條五代記〕早雲寺殿廿一ヶ條

一よき友をもとめべきは手習學文の友也略○中人の善惡皆友によるといふ事也三人行時かならずわが師あり其善者をえらんで是にしたがふ其よからざる者をば是をあらたむべし

〔承久軍物語〕いかに大竹殿御へんはもとほむさしのくにの住人くはんとう御をんの人ならずや侍は草のなびきとはいへども後代の名こそおしけれあしくも見へ給ふものかなと略○下

〔義經記〕土佐房よしつねの討手に上る事

土佐をからめて参りて候と申しければ略○中いきて歸りたくはかへさんするぞいかにと仰られければかうべ地に付て猩々は血ををしむさいは角をおしむ日本の武士は名をおしむと申事の候

〔陰徳太平記〕四十七熊野降参并高瀬城巡見之事

侍ハ渡リ者ナレバ何ノ憚ル事カ有ン早ク降参シテ妻子眷族ノ心ヲ安穩ナラシメラレヨト或ハ宥メ或ハ忿テ再三諫メタリシカバ熊野實モトヤ思ケン應テ熊野ノ城ヲ明テ降旗ヲゾ樹タリケル

〔關八州古戦録〕十七豆州葦山城責事

城中山○葦ニモ彼等ガ勝レタル武勇ノ程ヲ感ジテ敵ナガラモ適剛ノ者共哉名字ヲ名謁テ退レ

ヨト呼ハリケレバ四人橋ノ上ニ立テ大音揚ゲ福島左衛門大夫正則ガ家來誰々ト名謁テ引退ク其隙ニ城兵鐵炮ニテ打留ントヒシメキゲルヲ美濃守ヤヲラケ様ナル徑廷ノ者共ハ冥加ノ武士ト名附テ無下ニ誅スレバ却テ軍神ノ答メアリトコソ昔ヨリ云傳タレ必手向スベカラズ

略○下